

第 1 回アウトバウンド検討会 議事要旨

○各委員の取組紹介

- ・観光庁の（若者のアウトバウンド活性化に関する検討会）とりまとめを、より具現化するのがこの検討会だと思っている。
- ・全国的にアウトバウンド促進は課題であるが、九州は特に出国率が低く深刻であり、自覚すべき。
- ・このままでは人材育成や国際競争に支障が生じると危惧している。
- ・若いときに海外に行けば、海外旅行のリピート率が高い。
- ・海外修学旅行はアウトバウンド促進に重要な要素で、推進が必要。
- ・修学旅行に加え、家族旅行も重要。
- ・海外旅行に年に数回行く層、ほとんど行かない層の間、中間層をターゲットとするべき事業を見出せればと思う。
- ・九州経済連合会では、国に対し9月に観光振興要望書を提出する。内容は、国からのアウトバウンドの重要性の発信、（留学経験者の優先雇用、）海外修学旅行の援助など。

○アウトバウンド促進についての意見交換

- ・マクロ的な考えは観光庁の報告をベースにするべき。
- ・福岡の特性を大いに反映した事業が今後のキーワードになる。
- ・若者が多い福岡の特性を活かすかたちが望ましい。
- ・若い人の価値の置き方は個人でそれぞれ異なるため、インバンド・アウトバウンドを含め、みんながとっつきやすい促進事業がよい。
- ・人口は減少しており、一人あたりの旅行回数を増やしていくことが大事。

- ・九州の空港は、ビジネス利用が少なくレジャーでもっており、何か起きれば弱い
- ・ビジネスの観点からの促進策は、企業相手では成果が出るまで数年かかるので、中長期で考える必要があり、今回の検討会では難しいと思う。

- ・インとアウトの好循環を作り出す事業が必要。
- ・アウトバウンドを促進するには強力なパワーがいる。促進に異を唱える人はいないが、税の投入となると困難で、民間が主体となる。だれがやるのかも大切。
- ・行政のリーダーシップが重要で突破口につながる。

- ・アウトバウンドは航空機だけではなく、福岡の特徴のひとつでもあるクルーズとの連携も検討にに入れてほしい

- ・アウトプットの一つとして情報共有のプラットフォーム、関係者の構築が必要。